

みちぶしん MUSICAL・ふるさとときやらばん公演

# カントリーチャレンジャー

COUNTRY CHALLENGER

明日への夢にかける熱き人間のエネルギー!!

当世面白一座の評判ミュージカル



構成・演出 石塚 克彦 音楽 寺本 建雄  
演出助手 天城 美枝 振付 小澤 薫世・劇団ダンススタッフ

平成18年12月3日(日) 【開場】午後1時30分  
【開演】午後2時 【終演】午後4時  
**姫路市市民会館 大ホール**

【主催】みちぶしんミュージカル播磨実行委員会  
【後援】兵庫県東播磨県民局・中播磨県民局、姫路市教育委員会、姫路市連合PTA協議会  
お問合わせ 「カントリーチャレンジャー」姫路市公演事務局 TEL 079-221-2543

未知  
普請  
対話と協働  
参加と責任  
未知への挑戦

※観劇対象は小学生以上です。(未就学のお子様はご遠慮下さい。)

# 劇団ふるさとときやらばん公演

みちぶしんMUSICAL  
カントリー チャレンジャーの創作にあたって

## ものがたり

### 海の道から米はやってきた

縄文人たちが、山でイノシシや鹿を追い、海では魚や貝をとり、狩りや漁をしてくらしていた頃、東シナ海の向こう側、中国大陸では国と国が入り乱れての戦乱の世。戦火を逃れた中国の人々は船をあやつり海を渡った。彼らは揚子江の下流域で日本の縄文時代に先立つこと、2000年も前から稲作をおこなっていた。海の道が新しい文化を運んできた。

そして人々は米をつくるようになる。子や孫の未来のため、豊かな村をめざして1枚でも多くの田んぼをひらいていく。



撮影：英 伸三

### 百年先も安心してらせる村を

日本は災害列島。いっつどこで地震や津波が起こってもおかしくないほど、地震の源となる活断層やプレートの上に横たわっている。

1854年の安政南海地震では紀州広村に大津波が押し寄せ、家も田畑も流され、人々は希望を失った。広村生まれの商人・浜口梧陵は私財を投げ打ち、大津波にも負けない堤防づくりを決意する。村人たちは安心してらせる村をつくるため、毎日堤防づくりに集まった。そして世界で初めてといわれる津波除けの大堤防が完成。その後の津波から村を守ったのだ。かのラフカディオ・ハーン(小泉八雲)もこの事実感動し物語を書き、世界に知られている。

いま私たちは街や田舎で、当たり前のように便利にくらしている。

私たちの郷土に生きた昔の人たちは、信じられないほどの労力や資材をつぎこんで、損得ぬきで労をおしまずムラや街をつくって来たことを、あらためてふり返させられる。

その人たちは、自分のくらす街やムラが、愛する子供や孫の時代には、よりくらしやすい豊かな郷土になるようにと、夢にかけて力をそそぎ、力を合わせて建設していったのである。

夢が人々を結び合わせ、人間の夢が力に転化する、そのことに感動を覚えないわけにはゆかない。

それは現代の私たちに欠けていることかも知れない。

カントリーチャレンジャーとは、郷土の明日に向かって夢み、たたかった人々のことであり、このミュージカルのテーマでもある。



### 劇団ふるさとときやらばん 1983年創立 劇団員100人

- 1985年 文化庁主催 第40回芸術祭賞(ミュージカル「親父と嫁さん」)
- 1987年 第3回日本舞台芸術家組合賞(作・演出 石塚克彦)
- 1989年 第6回日本イベント大賞・最優秀企画賞  
1日で作る300人ミュージカル
- 1994年 第19回菊田一夫演劇賞(音楽 寺本建雄)
- 1995年 第11回日本舞台芸術家組合賞(俳優・振付 天城美枝)
- 1996年 第4回スポニチ文化芸術大賞グランプリ  
(ミュージカル「裸になったサラリーマン」)
- 1997年 第4回水産ジャーナリストの会年度賞  
(ミュージカル「パパは家族の用心棒」)
- 2000年 第2回東京芸術劇場ミュージカル月間公演優秀賞  
(ミュージカル「噂のファミリー-1億円の花婿」)
- 2001年 第17回日本舞台芸術家組合賞(チーフ・オブ・ユーザーひらつか順子)  
うつくしま未来博ジャパンエキスポ大賞優秀賞  
(広域交流館・ミュージカル「ホクトウの森」)
- 2002年 第14回池袋演劇祭大賞  
(ミュージカル「パパの明日はわからない」)
- 2005年 日本国際博覧会「愛・地球博」にて2作品上演  
(ミュージカルショー「われら地球族!」  
パブリックミュージカル「どんどんどんどん」)



「未知普請」とは、21世紀における道路や河川などの公共性や公共事業のあり方について地域の皆様とともに考えていこう、という取り組みです。鎌倉時代には「道普請」という言葉が盛んに使われ、村の道や水路などの生活基盤作りや補修などの作業を、地域の人々が勤労奉仕として、自らの力で作り、守ってきました。この道普請の「道」に「未知」をあて、道路だけでなく川や公園などの他の公共施設も含め、将来を切り開く意味をこめて、「未知普請」としたものです。

未知普請は、こうした考えのもと「対話と協働」、「参加と責任」、「未知への挑戦」の3本柱をもって、積極的な活動を推進していきます。